

第一週

こほろぎ、ばった

お休みが済んで来てみた幼稚園は何さいふ歓迎ぶりを示して呉れるこごであらう。庭中は草、草、草。踏めば飛び出す蟲、蟲。こごも達の心もはねかへる様である。蟲ごりは楽しい。こちらは周到な用意を注意を以て楽しみをふんだんにさせよう。その用意さいふのは幼稚園の草叢にゐる蟲の種類をあらかじめ知つて置く事が一つ、種類を同時に大體の習性を知つて置く事が二つ、子供達に取らせる爲の道具を簡單でいゝから(蟲ごりあみ、これは針金を輪にしそれにさらし又はカンレイシヤの袋をぬひつけ竹の棒に結んだもの、取つた蟲を入れる籠、箱、袋の類、これ等は廢物利用で子供達ご一しよにつくる)用意する事がその三つ。注意さいふも限りなくあるがその中でも、特に身體的方面を注意すべきであらう。九月の日射はまだ暑い、無帽でかけまはるのは毒である。走つてころんで怪我のないやう、ましてあ

ぶないひつかりのない様。わかり切つたこごであるが。

こごして折角取つた蟲をそれなりにしてはならない。こほろぎは鉢に砂土を入れ、草を植ゑ、胡瓜なご與へて飼ふ。保育室の静になつたひごまき、鳴き始める聲に驚きもし喜びもする。こごもの探求心は發音器を觀察せずには置かない、そのためにも是非飼ひたい。バッタ等は手にこつて観る。大きな目、觸角、はねる爲の太い後肢、等をこちらから適當に指示してみせる。

こほろぎでは、えんまこほろぎ、つゞりさせこほろぎ、みつかごこほろぎ、おかめこほろぎ。ばったでは、だいめうばつた、きちくばつた、しようりようばつた等が普通である。朝顔の花

春蒔いてずつこ觀察をつゞけてゐた朝顔がお休中にすつかり成長し、花が咲き、もう實さへ出來てゐる。まだ毎朝よく咲く。今日はいくつ咲いた、あしたはどれどれが咲く、何色がいくつ、さいふ楽しみは私共誰もがもつてゐる

夏の楽しい思出の一つだ。それを幼稚園で味ふのは又いゝ
ことであらう。その間に「朝顔の花びらにはほら、きれめが
ないのね」又「ぎの朝顔もおんなじようになまきついでるます
よ」左巻を注意するのもし、その時同時に實も注意した
い。それには特に大きいさか色の勝れてる花さかに注意
して印をつけて置き、その成長をみる事により必然的に
花より實への成長を観察させるのもよい方法である。兎に
角花と實とを別々に観察させるより連絡をつけたいもので
あり、實の成長、種子へ迄続けた観察をさせ度いのである。

第二週

町の祭禮

ドーンドーンと弾む様な太鼓の音が奥まつた幼稚園に迄
聞えて来る頃は、誰彼さなく自分達の住む邊のお祭のこご
を話す。土地により氏神により地方なら一層その土地特有
な味のある行事は何と言つてもお祭である。こごもの好き
な、そしてかうした社會觀察は郷土教育の第一歩であら
う。幼稚園ではつびを着なくてもよいけれどお神輿や萬燈
や花笠なごを用意してお祭りの氣分を味はせたい。門前を
おみこしが渡御の時なき一しよにみに行くのもよいこごで

ある。そして子供達の知つてゐるお祭の様子なき話し合ふ
のもよい。

お月見

お月見が来るご秋を感じる。秋は空のもつとも美しい時
である。お月見の觀察は二つの意味をもつ。一つは天體觀
察。これは幼稚園では直接に出来ないがお月見を通して興
味をむけるのである。さうする迄もなく既にお月様に對し
て星空に對してこごも達は非常な親しみを持つてゐるがそ
れはファンタスティックなものである。それはそのまゝに
して尙その上に實在のものそれ自身の美しさに關心をもた
せたいこごである。もう一つは行事としての觀察である。
誘導保育の方で説明されてゐるであらうから特別に記す必
要もない。お供物として初物の栗や柿、製作に際して觀察
させよう。

第三週

鳩(傳書鳩)

一幼兒の家庭から傳書鳩をもらった。早速鳩小屋をこし
らへて飼ひ初めた。こごも達にこつて最も親しみ深い鳥で

あるがかう自分達のものとして眼近くに観るのは又大きな喜びである。ここに傳書鳩なるこそそれからそれへこ話し

手
技

第一週

自由畫 二回

夏休み中海岸に遊び、山に遊びし印象、又は家庭での面白き遊びの印象を自由畫としてかゝせる。夏休み中に畫きしものなご幼稚園に、もつて來ればこれなごも部屋に一緒に飾つて、小展覽會を開く、

朝顔

幼稚園の庭に咲く朝顔を寫生したり、花數輪、葉數葉を淺き鉢なごに水を入れてさしてかゝせたりする。

鈇仕事

朝顔 一回

自由畫と同様、朝顔の花の實物を、花瓶にさして幼児に觀察させながら、切らせる。

外側は色の紙にて切り、中心はその色紙を裏がへして小

乍ら面白く觀察させられる。

さく丸くきる。葉は中央大きく、兩側少し小さく、三つに裂けてゐればよいのである。

ぬりゑ

朝顔 一回

花の色は、幼児の好きなものにする。茶色なごをさける事を話す。

第二週

自由畫

年長組の繪の鑑賞

夏休み中のいろくくの自由畫も、幼稚園がはじまつてからの繪も交せて飾つてみせてもらう。保姆が出来るだけ少人數の幼児を連れて（二組を幾度かに分けて）繪の説明をよくする。

粘土 一回